

## 耐震工事をして全面リノベーションをした小さな家の事例

### 塩屋町の家(木造2階建)

設計 天野建築工房 天野拓夫

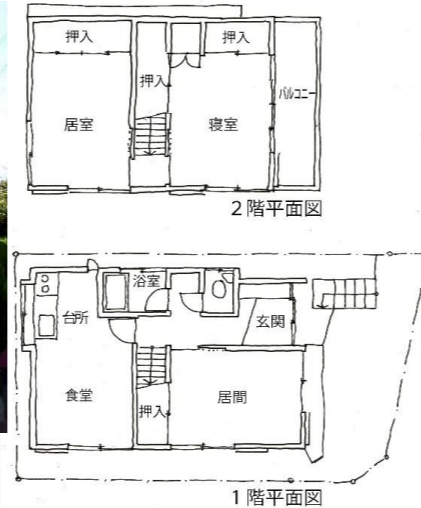
1971年に建てられた木造住宅  
神戸市垂水区塩屋町

敷地面積 56.03㎡(16.95坪)  
1階 33.48㎡(10.13坪)  
2階 28.35㎡(8.57坪)  
延床面積 61.83㎡(18.70坪)

八尾市内でもよく見かける  
床面積が18坪ほどの  
建売住宅の全面改修をした事例です。

子供部屋も3畳ほどしかありませんが造作家具とすることで使いやすいスペースとなりました。2階はLDKですが各所に収納やカウンターを配置し、家事や趣味のスペースを確保しています。またリビングはより拡がりを感じられるよう梁を見せた勾配天井としています。

小さな家でも工夫をすることでより豊かな空間が生まれます。



南側外観



子ども室の造作家具



リビングよりダイニングを見る



リビングからの眺望

この情報誌に関するご意見  
「住まい・まちづくり」に  
取り上げて欲しい内容等が  
ありましたら、  
ご連絡・ご一報下さい。

●企画・編集● NPO法人 八尾すまいまちづくり研究会  
代表理事 津田 和男 TEL 072-991-8480

●発行● 八尾市 建築部 住宅政策課  
TEL 072-924-3783  
FAX 072-924-2301

八尾市ホームページ <http://www.city.yao.osaka.jp>  
E-mail/jyutakuseisaku@city.yao.osaka.jp



カラー版の  
HOPENEWS

# 住まいの情報局

HOPE NEWS 第46号

発行日：2026年3月吉日

編集：天野拓夫 北村茂章

## ■ 小さな家のコンテポラリー ■

暮らしの豊かさはどのように成り立つのだろう。  
自分にとって大切な人やもの、空間とはなんだろう。

「小さな家の暮らし」にいま注目が集まっています。  
小さな家の豊かさとは広さや豪華さではなく、暮らしの質が高まることにあります。  
建築費がおさえられ維持費も安くすむといった経済的なこと。  
さらには土地が小さくてもよいので立地の選択肢もひろがります。  
家事のしやすさや家族とのつながり、将来の住み替え、また高齢者にとっても暮らしやすい住まいといえます。  
必要なものだけに囲まれる豊かな暮らし。

欧米では14、5年前から「タイニーハウス(小さな家)」のムーブメントが起きていますが、そのきっかけは、2008年に発生した世界規模の金融危機「リーマン・ショック」だと言われています。この金融危機をきっかけに「豊かさってなんだろう」「本当に必要なものは何？」と多くの方が考えるようになりました。日本でも東北の震災、またコロナ禍により、必要以上のものにとられない生き方を考える人が増え、そのような暮らし方が拡がり始めました。



画像は、  
Adobe Stockより



そういえばかつて名建築といわれた住まいも小さな家でした。  
ル・コルビュジェ「母の家」、アルヴァ・アアルト「コエ・タロ(夏の家)」、清家清「私の家」、増沢 洵「自邸(最小限住居)」、菊竹 清訓「スカイハウス」、東 孝光「塔の家」、安藤 忠雄「住吉の長屋」などなど。

現在において世界情勢は混迷を深め、見通すことはできません。  
おさまる気配を見せない世界の紛争、地球温暖化による気候変動、世界的な物価の高騰、また多拠点生活といったライフスタイルの変化、核家族のさらなる細分化などにより日本社会も不安定さを増しています。  
そんな不確実な時代、かつて「ガラパゴス」と揶揄された日本の軽自動車コストやデザイン、機能性の観点から世界でも注目をあつめているように「小さな家の暮らし」にいま目を向けるべきではないでしょうか。

日本でも静かに、しかし確実に「小さな家」のムーブメントは広がっています。  
小さな家の魅力を紹介しましょう。

## 「小さな家」の特徴

### 1. 建築予算を抑えられる

光熱費がすくなくてすむ  
維持管理や修繕費も軽減できる

### 2. 環境にやさしい

建材の使用料が少なく、CO2削減につながる  
少ないエネルギーで暮らせる

### 3. 住まいがコンパクトで快適

動線が短く家事がしやすい  
掃除や片付けがらく  
必要なものに囲まれるシンプルな暮らし

### 4. 生活の自由度が高い

土地が小さくても建てられるので立地の選択肢が広がる  
将来の住み替えも柔軟に対応しやすい

### 5. 家族とのつながり

小さな空間は自然と家族の距離を近づける

### 6. 高齢期への備え

シンプルさは高齢者に最適

### 7. 豊かさの再発見

予算を抑えられることで将来へのゆとりが生まれる  
持たない、小さく住むというライフスタイル

## 名建築といわれた住まいも小さな家

国内の建築家が手がけた名建築といわれた住まいの中で、工夫を凝らされた3つの小さな家をご紹介します。

### 私の家 清家 清(せいけ きよし)

所在地：東京都大田区東雪谷

1954年(昭和29年)竣工

鉄筋コンクリート造平屋建、金属板葺

面積 延床面積：51㎡(15.43T) 地下室付

国登録有形文化財(2017年登録)

鉄筋コンクリート造の小住宅。限られた面積の中、床高を15cmとし、庭の広さを取り込んだ一室住居に家族が住まう構成である。

この家に家族6人が寄り添うように暮らしたという。

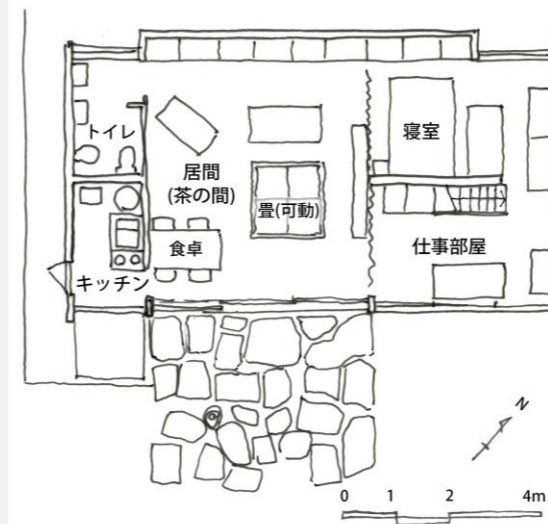
清家は50㎡という広さを人間が疲労を覚えることなく掃除ができる限界の時間を割り出し、そこから逆算して家の広さを決めたそうだ。

この家のシンボルともいべき移動式の畳。

ここはお茶の間であり、子供の寝室であり、庭に出せばリビングにもなった。



画像は、「私の家」友の会提供



「私の家」SEIKE HOUSE HP  
友の会事務局運営



### 搭の家 東 孝光(あずまたかみつ)

所在地：東京都渋谷区神宮前

1966年(昭和41年)10月竣工

鉄筋壁式コンクリート構造

地上5階、地下1階

面積 敷地面積：20.5㎡(6.20T)

建築面積：11.8㎡(3.57T)

延床面積：65㎡(19.66T)

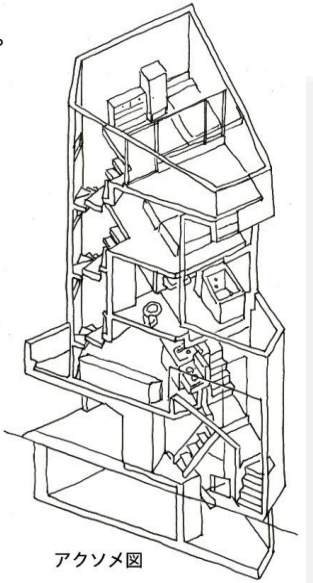
1966年に建てられた東の自邸である。

狭小住宅としておそらく最も有名な作品ではないだろうか。

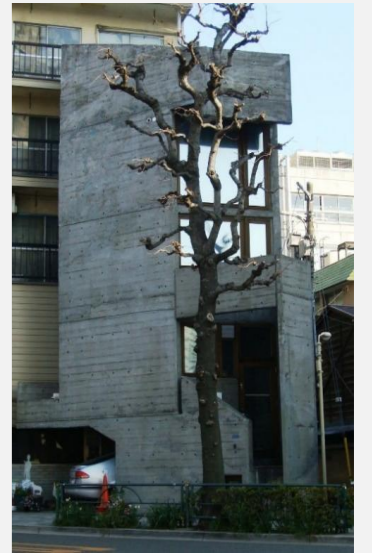
都心のわずか6坪ほど(20㎡)という狭い敷地に、地上5階・地下1階を搭状に積みあげた住宅である。

玄関を除けば、トイレも浴室も含め扉が一切なく、間仕切りもない。吹き抜けて開放的な空間設計が狭さを感じさせず、都心の小さな敷地でも豊かに暮らせることを示した住まいといえる。

家族の「暮らし」がそこにある。



アコンメ図



画像は  
110kuwahara  
CC表示・継承 3.0

## スミアアオイハウス 小泉 誠(こいずみ まこと)

所在地：東京都三鷹市

1999年(平成11年)竣工

木造2階建て

面積 敷地面積：94.07㎡(28.46T)

1階床面積：29.81㎡(9.02T)

2階床面積：21.53㎡(6.51T)

延床面積：51.34㎡(15.53T)

1952年、増沢洵が自邸として設計した小住宅の傑作「最小限住居」を原型に、1999年にデザイナー・小泉誠がリデザインした住まいである。

9坪の床、3坪の吹抜け、水廻りの規模といった骨格は「最小限住宅」を継承しているが間取り自体は施主の暮らしに合わせて再設計されている。造作家具はもちろんのこと建具のディテールなど小泉の丁寧な納まりが空間を引き締めている。

実際の空間は規模からは想像もできないのびやかな広がりを感じられるようだ。

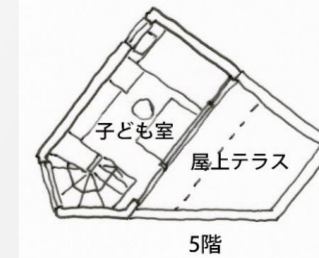
2000年代前半、大きな話題を呼んだこの住まいは現在、住宅としての役割を終えて、一棟貸の宿として生まれ変わっている。



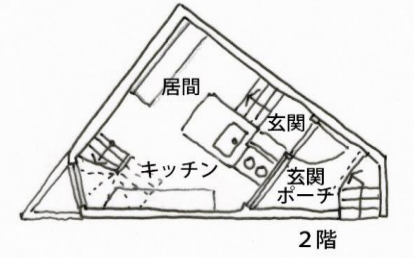
9坪の宿  
スミアアオイハウス



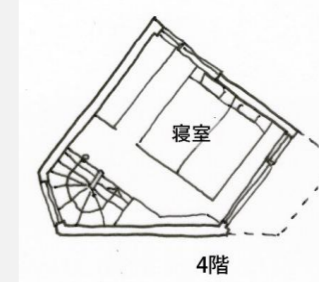
画像は、9坪の宿 スミアアオイハウスより



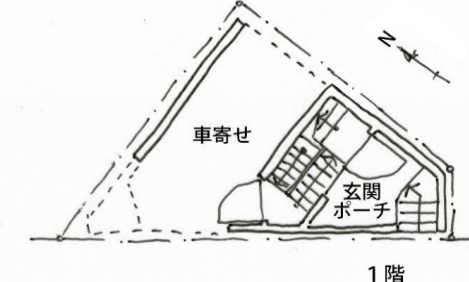
5階



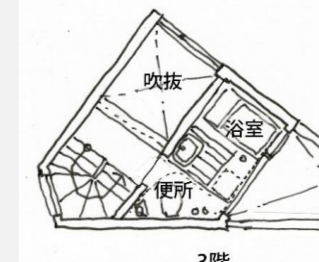
2階



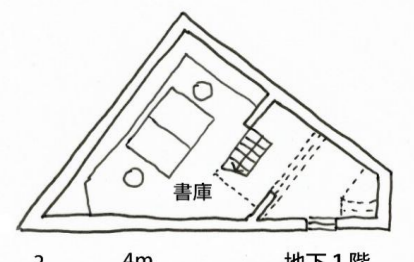
4階



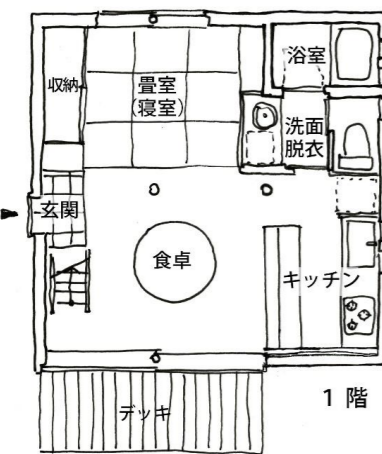
1階



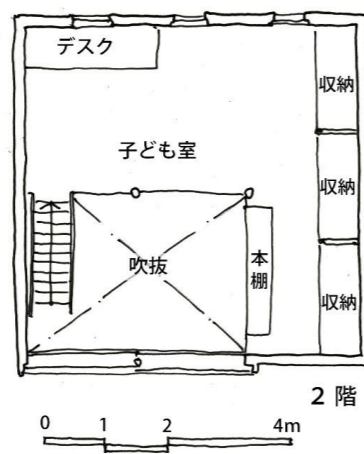
3階



地下1階



1階



2階